

「探究」をもっと深める

2023年度からの2年間、(公財)パナソニック教育財団の特別研究指定校として「探究のプロセスを蓄積し、自発的に未来を切り開く思考力・表現力を高める東金アジャイル教育」日本型教育実践とICTを活用したSTEAM型教育をベストミックスとした令和の学びのスタンダード化の実現」に取り組んでいる葛飾区立東金町小学校(河村麻里校長・東京都)。10月22日にその成果を公開した。特別研究指定校は東京都の公立小学校としては約10年ぶり。

葛飾区立東金町小学校・東京都

同校は2022年度に「設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4段階を軸とした「探究」の授業実践を受け、STEAM教育の5つの視点からカリキュラムマネジメントに取り組み、その翌年には特別研究指定校として、「日本型教育実践」と「STEAM教育」をベストミックスした「アジャイル教育」を開発した。また、授業中に1人1人考える時間を「もくもくタイム」や「友達と話し合う時間」を「もくもくタイム」、クラス全体で話し合う時間を「なるほどタイム」と設定した。

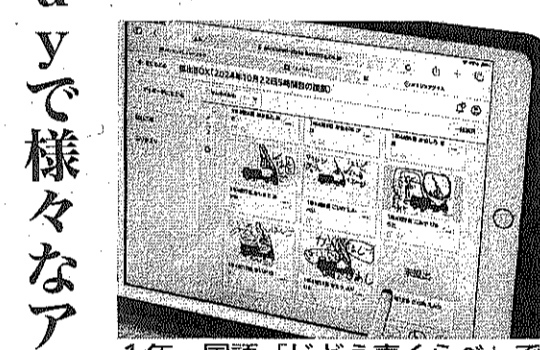
24年度は、各教科の学習を「習得」「活用」に分け、さらに生活科や総合的な学習は「プロジェクト」「探究」に位置づけた。1年生国語「じどう車くらべ」ではアジャイル教育の「習得」の部分を実践。ルーブリックでは、もくもくタイムで「友達への考えを聞く」「自分の考えを伝える」の2つができたから50%満足、どちらか1つができれば40%満足、2つが達成するため教員が課題を提示する問題解決型の授業。I字型の図形の面積について、もくもくタイムでどのような求め方があるかを考え、もしもタイムで互いの考え



河村麻里校長

を友達と見せ合い、2度目のもくもくタイムで改めて解き方を導く。児童は提出ボックスに解答を送り、なるほどタイムで図形を付け足して長方形にしてから2で割る作戦などを発表。最後のまとめでI字型の図形は正方形や長方形の図形をもとに考えることで面積が求められることを共有。今年度は1学期の「探究」で児童は自分の好きな事を知るためのイメージマップを作成。その中で一番好きだったことについて調査したが、好きという理由だけで探究を続けることは難しい。調

を友達と見せ合い、2度目のもくもくタイムで改めて解き方を導く。児童は提出ボックスに解答を送り、なるほどタイムで図形を付け足して長方形にしてから2で割る作戦などを発表。最後のまとめでI字型の図形は正方形や長方形の図形をもとに考えることで面積が求められることを共有。今年度は1学期の「探究」で児童は自分の好きな事を知るためのイメージマップを作成。その中で一番好きだったことについて調査したが、好きという理由だけで探究を続けることは難しい。調



1年・国語「じどう車くらべ」で他の児童が提出したものを見ながら消防車の特徴を考えた



6年・実験Dayで「電車のデザインが変わる理由」を考えた

き込んでいるのか」「どうしたらホームランを打つことができるのか」など様々な。児童は自分の学習計画に沿って、絵の具を使用した児童は図工室、実験を行いたい児童は理科室などに移動。もくもくタイムでは図書やインターネットを使った情報収集とともに、子供でも活用できる生成AIにも相談していた。

河村校長は、①放課後に教員が自由に使える時間を増やした、②ICTを恐れずに使って慣れることを実践、③企業連携や大学連携を推進してICT環境を整備、④さまざまな教員研修の充実、⑤研究推進委員会のメンバーが教員全体で使用する研究推進デザインを展開などの取組で教員の時間の確保に努めている、と話した。

河村校長は、①放課後に教員が自由に使える時間を増やした、②ICTを恐れずに使って慣れることを実践、③企業連携や大学連携を推進してICT環境を整備、④さまざまな教員研修の充実、⑤研究推進委員会のメンバーが教員全体で使用する研究推進デザインを展開などの取組で教員の時間の確保に努めている、と話した。

実験Dayで様々なアプローチを体験

「実験Day」も設定。公開授業では3年生、5年生、6年生が総合的な学習の時間に「探究」の段階の「実験Day」に取り組んだ。

ルーブリックでは学習到達度を次の3段階に設定。S調べたことや考えたことを整理してAIや友達に報告相談。自分の考えに自信が持てたり、

改善したりすることができ、「A調べたことや考えたことを整理してAIや友達に報告・相談することができ、B前に引き続き、自分の課題について情報を集めることができる」と。これまで到達したかを児童はポートフォリオに記録した。課題は「声優はどのようにしてアニメに声を吹き込んでいるのか」「どうしたらホームランを打つことができるのか」など様々な。児童は自分の学習計画に沿って、絵の具を使用した児童は図工室、実験を行いたい児童は理科室などに移動。もくもくタイムでは図書やインターネットを使った情報収集とともに、子供でも活用できる生成AIにも相談していた。

河村校長は、①放課後に教員が自由に使える時間を増やした、②ICTを恐れずに使って慣れることを実践、③企業連携や大学連携を推進してICT環境を整備、④さまざまな教員研修の充実、⑤研究推進委員会のメンバーが教員全体で使用する研究推進デザインを展開などの取組で教員の時間の確保に努めている、と話した。

河村校長は、①放課後に教員が自由に使える時間を増やした、②ICTを恐れずに使って慣れることを実践、③企業連携や大学連携を推進してICT環境を整備、④さまざまな教員研修の充実、⑤研究推進委員会のメンバーが教員全体で使用する研究推進デザインを展開などの取組で教員の時間の確保に努めている、と話した。

河村校長は、①放課後に教員が自由に使える時間を増やした、②ICTを恐れずに使って慣れることを実践、③企業連携や大学連携を推進してICT環境を整備、④さまざまな教員研修の充実、⑤研究推進委員会のメンバーが教員全体で使用する研究推進デザインを展開などの取組で教員の時間の確保に努めている、と話した。